

21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」 第2回長崎シンポジウムを開催



開会の辞を述べる齋藤学長



シンポジウム風景



国内外招待者による記念撮影



文部科学省研究振興局量子放射線研究推進室
木村直人室長

医歯薬学総合研究科は、7月26日(水)・27日(木)の2日間、21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」の第2回長崎シンポジウムを、28日(金)にはサテライト会議を医学部ポンペ会館において開催しました。

開会式では、齋藤学長による開会の辞に引き続き、文部科学省研究振興局量子放射線研究推進室の木村直人室長を始め、独立行政法人放射線医学総合研究所の米倉義晴理事長、財団法人放射線影響研究所の大久保利晃理事長、笹川記念保健協力財団の紀伊國献三理事長、日本アイソトープ協会の長瀧重信常務理事から祝辞が述べられ、COEプログラムリーダーである朝長医歯薬学総合研究科長からCOEプログラムの概観について報告がありました。

同プログラムは、放射線医療科学の世界拠点を同大に形成し、世界の研究機関と共に放射線被ばく者への医療と疫学及び放射線生命科学の基礎研究領域を統合し、学際的・複合的に新領域を切り開き、最も重要なガン発生の予防・診断・治療を飛躍的に発展させることを目的として、平成14年度に採択されたものです。

今回のシンポジウムは、同プログラムが今年度で最終年度を迎えるにあたり、これまでに培った教育・研究の成果を発表し、相互理解を深めることにより医学教育・研究の交流を発展させることを目的に開催されたもので、旧ソ連やアメリカなど8カ国から外国人研究者21名と国内から被ばく者医療、放射線疫学及び放射線生物学の著名な専門家23名が招聘され、総勢100人を超す研究者が参加し、基調講演や研究発表が行われ、大きな成果をあげました。

(医歯薬学総合研究科学術協力課)